


お花の栽培シリーズ「ニチニチソウ」



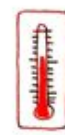


2007年5月	皐月(さつき)・菖蒲月(あやめづき)・午月(ごげつ)・早苗月(さなえつき)・橘月(たちばなつき)・多草月(たぐさつき)・五月雨月(さみだれつき)	●春の花盛りの時期
新芽がいっせいにのびて、瑞々しい空間を楽しめます。草花の成長盛りのこの時期は、生命の神秘を感じるたくさんの発見があるはず。草花たちの成長を毎日見守ってあげましょう。		
庭木の作業	・ツツジは花が終わった時期に整枝します。	
草花の作業	・春まきの草花の移植、定植。 ・アサガオの種まき。	

今月の誕生花	アヤメ・カーネーション・スズラン・ボタン	
今月の花	ゼラニウム 花言葉 / 愛情	
	ゼラニウムは、イスラム教の創始者マホメットの徳を称えて、アラーの神が この世に生み出した植物だ・・・といわれています。そこから 神の無償の愛情として「愛情」の花言葉がうまれたようです。ある日、マホメットは 洗濯したシャツを ラベンダー・マロウというアオイ科の植物にかけて 干したそうです。でも、シャツが乾いたとき 植物はすでにゼラニウムに変わっていて 勢いよく 頭をもたげ、枝いっぱい 鮮やかな赤い花をつけて 強いにおいをはなっていたそうです。一般に ゼラニウムの葉には イヤなおいがあるので、イギリスなどでは 室内で この葉を切るのは いやがられるそうです。しかし、品種によっては バラ・レモン・リンゴ・ハッカなどの 香りのするものもあるとのこと・・・。 日本には 江戸時代末期に はいってきました。主に 切花や 鉢植え用に 栽培されてきました。当時は 葉が アオイに似ていたので、テンジクアオイと 呼ばれたそうです。	
	原産地は南アフリカ。フウロソウ科テンジクアオイ属の多年草。草丈は30～50cm。開花時期は周年。最盛期は5～9月。葉の形状は、長柄、心臓状円形、浅裂、縁は鈍きよ歯。花色は、白～桃。英名フィッシュゼラニウム(Fish geranium)、ゾナーレゼラニウム(Zonal geranium)。別名ペラルゴニラム、モンテンジクアオイ	
	ストレートな花言葉は 愛を伝えるプレゼントにピッタリです。メッセージといっしょに この真っ赤な花の鉢植えを 愛する人に プレゼントしてみても いかが???	

お花の栽培シリーズ

今月の花

ニチニチソウ

<p>日当たり</p>  <p>日なた</p>	<p>水やり</p>  <p>乾燥きみ</p>	<p>気温</p>  <p>20~25℃</p>	<p>草丈</p>  <p>30~60cm</p>	<p>花色</p> 
--	--	---	--	---



真夏でも 毎日 咲きつづけるので 人気が高い花です。本来は 熱帯地方の植物で 高温で乾燥した環境と 日光を好みます。光が足りなかったり、水をやりすぎたりすると 葉ばかり茂って徒長してしまいます。そこで、日当たりと 水はけのよい場所で 用土の表面がかわいたら 水やりをするように管理します。乾燥には 比較的 強いので、乾燥気味にしてかまいませんが、乾燥させすぎないように 注意しましょう。

真夏には 込み合った部分や 伸びすぎた枝を 切り詰めます。

花期が長いので 肥料切れにならないように 月1~2回 追肥します。チッソ肥料が多いと 葉ばかり茂ってしまうので リン酸とカリの多い肥料を あたえます。

本来、多年草なので 冬でも 日当たりのよい温室や室内で管理すれば、大きく育てることができます。

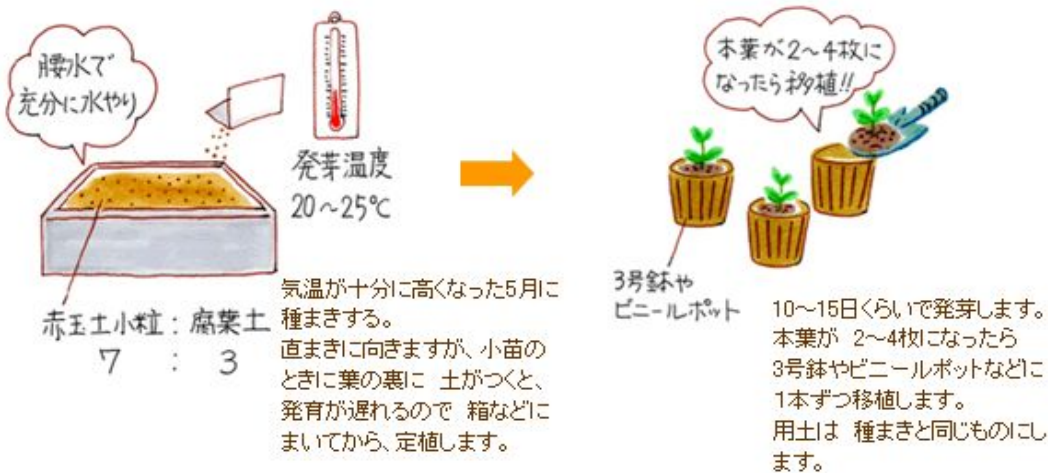
冬ごしさせて大きく育てましょう!!!



10℃以上

日当たりのいい部屋なら越冬OK!!
ただし、水やりを控える

●種まきからの育て方



種まきで 十分に水やり

発芽温度 20~25℃

赤玉土小粒：腐葉土 7 : 3

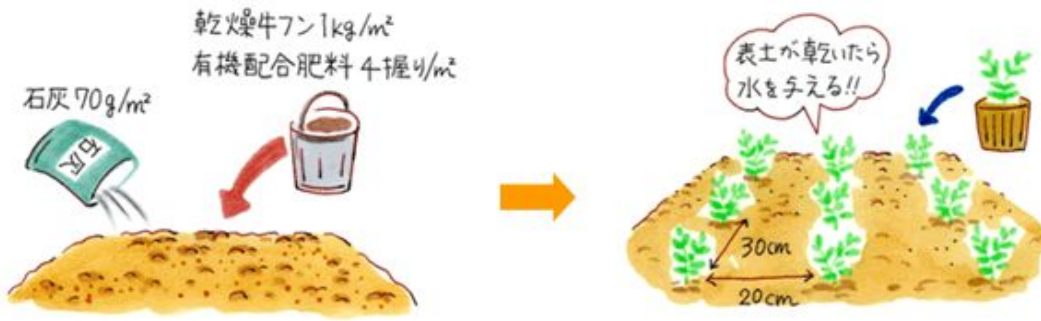
気温が十分に高くなった5月に 種まきする。直まきに向きますが、小苗のときに葉の裏に 土がつくと、発育が遅れるので 箱などにまいてから、定植します。

本葉が2~4枚になったら移植!!

3号鉢やビニールポット

10~15日くらいで発芽します。本葉が 2~4枚になったら 3号鉢やビニールポットなどに 1本ずつ移植します。用土は 種まきと同じものこします。

● 植えつけの やり方



● 年間スケジュール

月	1	2	3	4	5	6	7	8	9	10	11	12
状況	花期											
置き場所	屋外の日当たりのよい場所											
水やり	表土が乾いたら与える(1日に1回)				表土が乾いたら与える(2~3日に1回)				※水をやりすぎると徒長するので乾燥気味に育てましょう。			
肥料	元肥					月に1~2回、液肥を与える						
害虫	アブラムシ・ポトリチス病の防除に月1回 薬剤を散布する											
作業	種まき		植えつけ			収穫し						